

## 巻頭言

新年が明け、早くも二月が過ぎようとしています。賀詞交換会、年次報告会などで、すでに何度かご挨拶申し上げておりますが、遅ればせながら、今年もよろしくお願ひ申し上げます。血液・免疫診療の充実、臨床研究の発展、研修医教育には関連病院の先生方のご協力が必須であり、今年は、先生方との意見交換を今まで以上に積極的に進めていきたいと考えています。さて、このたび血液免疫科ニュースの第二号ができましたのでお送りいたします。編集長の山本譲司先生の企画により、医局員紹介、医局ニュース、業績報告などを取り上げた構成となっています。先生方からの投稿も大歓迎ですので、編集長までお寄せいただきますようお願い申し上げます。（張替秀郎）

山田明之先生旭日双光賞受賞祝賀会が開催されました。

平成22年秋の叙勲対象者が発表となり、山田明之先生(昭和34年卒)が旭日双光賞を受賞されました。東北公済病院院長代理、宮城野病院院長として長年地域医療に貢献する傍ら、仙台市医師会理事、副会長を務め、仙台市の救急医療体制の整備等を行い、この2年間は仙台市医師会長として「国民の健康または公衆衛生の向上、増進に寄与した」功績が認められての受賞です。1月22日にホテルモントレにて祝賀会が行われ、多数の先生にお集まり頂きました。



米国留学への抱負 血液免疫科 助教 大口裕人



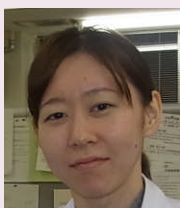
張替教授のご高配により、本年4月からボストンに在りますDana-Farber Cancer Institute, Jerome Lipper Multiple Myeloma Centerへ留学することとなりました。Jerome Lipper Multiple Myeloma Centerは、多発性骨髄腫に対する研究を幅広く行っている施設ですが、特に新規治療薬開発に力を入れており、bench to bedsideで基礎研究から臨床応用までを一に行っています。基礎研究では、特に多発性骨髄腫の病態に骨髄微小環境が与える影響に注目し、多発性骨髄腫と骨髄微小環境の相互作用についての研究を進めています。研究結果はもちろんですが、日本に戻った後も繋がるような研究ができればと考えています。初めての海外生活で戸惑うことも多いと思いますが、新たな環境で研究生生活を楽しまたいと思っています。

伝統行事どんと際が開催されました



平成23年1月14日、当科の参加も恒例となった大崎八幡宮どんと際が開催されました。酒とおでんで体を温めた後、一年間の無病息災・家内安全の加護を得るべく寒空の中を白鉢巻き・白さらし姿にてお参りしてきました。来年以降は大学外の先生方のご参加もお待ちしております。

#### 新人紹介（猪倉恭子）



昨年度4月から後期研修医として入局させて頂きました、猪倉恭子です。平成20年に山形大学を卒業し、その後2年間仙台医療センターにて初期研修を行いました。入局当時は同期もいなく不安で慣れないことも多かったのですが、先生方の温かい御指導のもとで現在まで何とかやってこれてきました。振り返ると、日常業務以外にも医局や病棟でのイベントに参加したり、伸び伸びと充実した毎日を送ることができております。また、今後は研究なども行っていきたいと考えており、さまざまなことに興味を持って取り組んでいきたいと思っております。まだまだ未熟者で先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、これからも御指導の程どうぞよろしくお願い致します。

#### 大学院生近況報告（鈴木真紀子）



私は現在、免疫学分野で研究させていただいております。研究テーマは「ヒト白血病モデルマウスの作成」です。免疫学分野でクローニングしたcommon  $\gamma$  鎖遺伝子をノックアウトしたマウスと、NOD/SCIDマウスと掛け合わせることで、マウスの免疫担当細胞（T、B、NK細胞）を欠損し、補体活性も減弱した超免疫不全マウス（NOD/Shi-scid, IL-2R $\gamma^{null}$ ）が確立されました。これらの免疫不全マウスは異種を拒絶せず、「ヒトの細胞」のより生体に近い条件下での長期的経過解析、免疫応答・血液悪性腫瘍、固形腫瘍の解析等多岐に及び利用されています。白血病は、他の固形腫瘍同様に遺伝子変異の蓄積により発症すると言われており、私はヒト臍帯血由来造血幹細胞（HSC）に候補遺伝子を導入し、マウスへ移植することで遺伝子変異と正常HSCの腫瘍化の関連性を証明しようと試みています。遅々としていますが、周囲環境に感謝しつつ精進する毎日です。

#### 業績報告

**白井 剛志先生**：医学系研究科大学院生による“第4回リトリート大学院生研究発表会”（口演20題、ポスター54題）が開催され、参加者の投票により最優秀演題賞を受賞。

日本リウマチ学会国際委員会および国際委員会サブコミティによる選考の結果、第55回学術集会国際ワークショップ賞を受賞（応募総演題数：143題）。

**藤原 亨先生**：日本血液学会16th Congress of EHA Travel Awardを受賞。日本血液学会が、若手の研究促進とJSHとヨーロッパ血液学連合（EHA）との間の交流の活発化を目的としたEHA congress参加支援事業で、22年度は5件が採択されています。

**大西 康先生**：Ph+ALLに対する臍帯血移植の良好な成績を報告した論文がBiol Blood Marrow Transplant, 2011 Jan 27. に採択。

**藤井 博司先生**：日本学術振興会（JSPS）主催日本－欧州先端科学セミナーに参加する若手研究者に選ばれました。このセミナーは、JSPSが欧州科学財団（ESF）との共催で開催しているもので、世界の指導的研究者による特定分野の最先端科学研究の講義と相互の討議を通じて、免疫学の将来を担う日欧の若手研究者を育成することを目的としています。今回は3月1日から6日までオランダで開かれ、日本から25名の若手研究者が参加します。